



今日の頑張りや明日の目標を発表する



ケーキを数え、対応させてスプーンを配る



年下の友だちの為に分担して大量生産する



年下の友だちに気を配りながら出発

CASE 4 5歳児

みんな楽しんでくねるかな

協力園

別府市立緑丘幼稚園

(幼児の実態)

前月、地域の保育園の友だちを緑丘幼稚園の運動会に招いて、園児の考えた競技に参加してもらいました。その際、相手に勝つことだけを考えて競技するのではなく、準備ができたか振り返って確認するなど、年下の友だちを気遣う姿が多く見られました。

先週は、小学校のお店集会に参加して、「今度は、自分たちがお店屋さんをして、保育園の友だちを招待してあげたい。」と、どのグループも目的をもって遊びに取り組んでいます。

遊び始めた頃のハンバーガー屋さんは、保育園の友だちに喜んでほしいと、バーガーに「コマを一つずつ丁寧につけたため、一日一個しかできませんでした。そこで、先日のお店集会のことを振り返りながら、商品がないと言われた時どんな気持ちになるか話し合いました。もらえなくて悲しい気持ちになる子がないように、運動会に来てくれた保育園の友だち20人、引率の先生も入れて、30個作ることにしました。

同じグループの友だちと、ハンバーガーを作る子どもたち。「一つできるときちゃんとカゴに入れながら数を確かめます。」「ねえ、ハンバーガーは、足りる？」「まだ、まだ。」「頑張らんとねえ。」と、目標数を意識しながら、手を止めることなく作っています。

隣の保育室では、カフェを開店する準備です。昨日の話し合いです。他のグループの友だちから、「今の数だったら、全然足りんよ。」「ジュースがこぼれてるみたいだから買いたくないな。」「何のケーキが分からない。」「等の話し合いが行われました。本日は、友だちの考えを受け入れながら、ケーキやクレージュ、ジュースを一生懸命に作っています。

ケーキ担当の子どもは、「1、2、3、...17。」と、ケーキを数え、更にケーキを見ては、「ケーキにスプーンを合わせるように円く並べていきました。」「フーツ。」とため息をつく。一緒に作っている友だちから「あと、もうちょっとやな。」「と言われ、嬉しそうに頷きました。保育者は、クレージュ担当の遊びの仲間として考えを出したり共感したりして関わっていました。

再度、ハンバーガー屋さんのぞいてみると、「保育園の友だち、喜ぶだろうなあ。」「色を塗って可愛くなったね。」「等、子どもたちの頑張りや認め、励ましながら、一緒に作業をしている保育者がいました。

しばらくすると、ハンバーガーを作っている子どもが「23個になったよ。」と、喜んで友だちに伝えます。保育者は、「昨日は17個だったね。いっぱい作ったね。」「と、昨日できたハンバーガーの数を思い出させ、比較しながら今日の頑張りや認めていました。目標の数に近づいてきたせいか、同じ大きさの紙が沢山できるように画用紙を重ねて切るなど、子どもたちの作る手の動きも早くなってきました。

片付けの後、それぞれのグループの遊びの進捗状況や明日の目標を確かめ合う場がありました。カフェグループが発表すると、「かわいい！」「という声が聞かれました。」「ケーキとかは、お持ち帰りができるんですか？」「という質問には、グループの友だちと顔を見合わせ「できますよ！」「と、「ニコと弾んだ声で答えました。

今後、子ども同士刺激し合い、協力しながら育ち、一人ひとりが自立していけるような仲間関係を築いていくことを期待します。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」



身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動できるようになる。

事例から見られる10の育ち

自立心

友だちから、保育園の友だちが楽しめるように、「本物みたいに沢山作りたいたい。」と言われ、遊びの目的をはっきりと持ったと思われる。友だちとのやりとりの中で、頑張ろう、やり遂げようとする気持ちを継続させている。

他のグループの友だちが認めてくれたことで、自分の頑張りや自信となっている。さらに、明日の遊びに対する意欲が増した。一人ひとりの自立心の育ちが協同性の育ちにもつながっていくと思われる。

事例から見られる10の育ち

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

年下の友だちが悲しい思いをしないように、目標数を設定した。ハンバーガーを一つ作り上げると、保育者が準備したカゴに並べて数える。一つずつ目標数に近づいていることに喜びを感じ、何度も数えることで、数に親しんでいると思われる。

ケーキとスプーンを対応させて準備したり、画用紙を重ねて切ったりしている。遊びの必要感から、数や大きさ、速さを感覚的に理解し活用しているのではないかと。

自立心を育む環境構成のポイント

- ・未就園児(毎月)や保育園(2学期以降)等の、継続した異年齢交流で心を通わせる体験の場の設定。
- ・自分たちでイメージを実現できるような、豊富な材料や道具の準備。子どもが主体となるよう、遊びの一員として関わる等のサポート的保育者の関わり。
- ・同じ目的に向かい、見通しをもって遊びを進められるような伝え合い、認め合う場の設定。
- ・友だちの頑張りを見たり聞いたりしながら、自分も挑戦してみる場や時間の確保。